

もの忘れ問診票

令和 年 月 日

はじめに 〈あてはまるものに○をつけてください〉

- ①「もの忘れ問診票」記入者 (本人 家族 介護者)
- ②本人は、もの忘れについての受診という自覚があるか (はい ・ いいえ)
いへの回答の方は、ご本人にどのように伝えて受診に来ているか ()
- ③受診のきっかけ (本人からの希望 家族からの希望 かかりつけ医からの勧め 介護スタッフからの勧め その他)
- ④要介護認定 (未 ・ 済)
済の回答の方は、認定結果 (要支援 要介護 担当包括・居宅 :)

困っていること・これまでの経過 〈あてはまる項目にチェック✓してください〉

- もの忘れ
- 同じことを何度も言う・聞く
- いつも探し物をする
- 会話が成立しない
- 無関心・無気力
- 寝てばかりいる
- 気分の浮き沈みがある(抑うつ)
- 一人で外出して帰ってこれなくなったことがある(徘徊)
- 日中寝て、夜活動する(昼夜逆転)
- 怒りっぽくなった
- 落ち着きがない
- お金や物を「盗まれた」と人を疑う(物盗られ妄想)
- 見えないものが見える・聞こえないものが聞こえる (例：子供の声をする、外に知らない男がいる等)
- その他 ()

具体的なエピソードをご記入ください

医師に相談したいこと 〈あてはまる項目にチェック✓してください〉

- 検査・診断 治療 アドバイス 介護保険の申請 その他 ()

日常生活の状態 〈あてはまるものに○をつけてください〉 ※自立：一人できる 介助：家族等の手伝いあり

- ①移動 (独歩 杖 介助 車椅子) ②会話のやりとり (できる 難しい できない)
- ③入浴 (自立 介助) ④着替え (自立 介助) ⑤排泄 (自立 介助)
- ⑥食事 (自立 介助) ⑦電話 (できる できない)
- ⑧買い物 (できる できない) ⑨一人で外出 (できる できない)
- ⑩服薬管理 (飲み忘れなし 飲み忘れあり) ⑪金銭管理 (できる できない)

今までかかったことのある病気 〈下記にご記入ください〉

飲んでいるお薬・かかっている病院 〈下記にご記入ください〉

【令和5年度 福島市長寿福祉課作成】

〈相談窓口〉
地域包括支援センター
福島市認知症初期集中支援チーム
認知症の人と家族の会 など

詳しくはこちら ▶



作成：福島市長寿福祉課 Tel：024-529-5064

認知症の人とその家族の思い

「わたしからのメッセージ」

※この内容は、「こころの声アンケート」にご協力頂いた方の、最初に認知症と気づいた時の状況から、受診、その後の生活までの一例をもとに作成しています。

1 気づき

今日はゴミの日だけ？
まただ…！
最近多いなあ

あれ？
〇〇さん頼みになるのが3回目だな
ご家族が来た時
ようすを聞いてみようかな…

年賀状を頼みたいのですが
いじやいませ

何気ない生活の中で変化に気づくことがあります

2 受診

財布もよくなくすんです。買い物も同じものを買ってきたり…

忘れてっぽくなって…

専門の先生に診てもらいましょう

普段から受診しているかかりつけ医に相談し、認知症専門医の紹介につながりました (※かかりつけ医で継続して診てもらう場合もあります)

かかりつけ医がない方は「もの忘れ相談医」に相談することができます

3 治療と対応

先生からもらったお薬を飲む時間ですよ

今日はゴミ出しの日だよ

薬を飲んだらゴミ出しに行ってくるよ

診断がつくことで、適切な治療や対応に結びつきます
服薬だけではなく、周りの声かけで役割を継続できます

4 今まで通りの生活

<いきいきもりん体操>

<お孫さんとあそぶ>

おばあちゃん元気でいてね

<近所をお散歩する>

〇〇さん こんにちほ！お散歩かい？

認知症と間違いやすい病気の早期発見・早期治療ができる


早期受診の利点：

認知症の薬は、早期に開始することで治療の効果がある

困った症状への対応を知ること、改善や予防が可能な症状がある

※こころの声アンケート：認知症ご本人とご家族の声を聴き、地域で暮らしていくうえでの課題を把握し、福島市認知症施策に生かしていくことを目的とした個別聞き取り調査。

ご本人から みなさんに伝えたいこと



みんなと話をすることが一番。
「今度家に来な」と言われると嬉しい。

やれることはやりたい。
役に立ちたい。

あーでもない、こーでもない
知り合いと話すのが楽しい。

家族とよく話をするように
しています。
言いたいことは言うように
しています。

朝起きて、夜寝るまで、
何事も変わらぬ日常を
過ごせることに感謝しています。

近所付き合いを大切に
しておくといい。

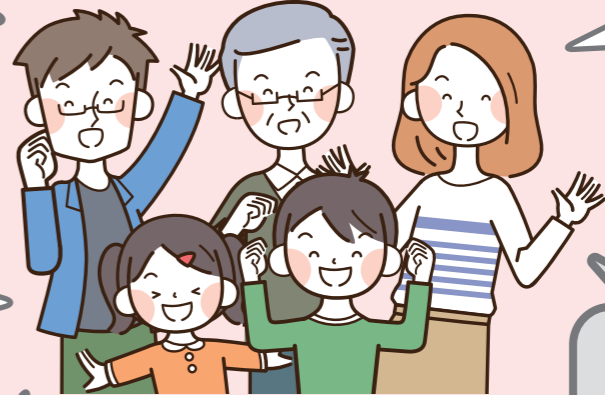
自分に合った**楽しめる場所や
機会**を見つけしてほしい。

失敗している自分が嫌になる、
判断する時間が欲しい、
時間をください。

ばかにしてほしくない、お世辞は嫌い。

前の自分と違うから**分かってほしい。**

介護中のご家族から みなさんに伝えたいこと



1人で悩まない。相談できる人はいますか？

介護者は、自分が思っているより
体が悲鳴をあげています。

1人で抱えこまないで。
相談できる関係機関に相談
するようにしてみてください。
介護者もつらいときもあるけど、
一番本人がつらいと思います。

介護につきっきりになると
疲れます。離れる時間も
大切です。
**自分が元気である
ことも大事です。**

具体的に困っていることを口に
すれば、(周りの人が)ヒントや
答えを与えてくれるものです。

**お互い
がんばりましょう！**

サポートする**しくみがあります。**
隠す必要はないです。

一人ひとり症状が違うので、他の人と比べず、
本人に合う接し方をしてほしいと思う。

認知症になってもダメな人間ではない。
できることはあるはず。
何度も同じ話をしてもいい、何回も言えればいいし
やればいい。イライラすると相手も..
心のゆとりがないと介護が嫌になりますよ。
ご自分のことも大切に。

変だなと思ったら、すぐに受診したほうがいい。
予防に関する相談もしたほうがいい。(本人)

受診についての思い

「あれ?」と思った時は、気のせいにならないで早めに相談・受診してほしい。
私は結局2年近くも放置してしまったので、もっと早く専門機関に受診して
いればなあと思いました。(家族)

気づき ● あれ?もしかしたら...



<本人の気づき>

- 「お薬手帳をなくした」
- 「娘から同じことを聞いて怒られた」
- 「カレンダーを見ても、日にちが分からない」
- 「朝おきると頭がもやもやして、おかしくなったのかな?と思った」
- 「好きなキノコの名前が出てこない」

<家族の気づき>

- 「水道を出しっぱなしにした」
- 「字を忘れて、書けない」
- 「味噌汁の味が変わった」
- 「賞味期限切れのものが大量に入っていた」
- 「電話があったことは覚えていても誰だったか分からない」
- 「パジャマの上に普段着をきていて、あれ変だなと思った」
- 「ふとした時、卵を割らないでご飯の上のにのせていた」

受診 ● 「まだ大丈夫!」 そう思ったときが受診どき

<受診のきっかけ(本人の声)>

- 「息子から認知症のテストをすすめられた」
- 「自分で分かって困ったから」
- 「ひとりでの生活が不安になった」
- 「夫の認知症の治療と一緒にみてもらった」

<受診のきっかけ(家族の声)>

- 「期間は覚えていないが近所の人にいわれて間もなく受診した」
- 「具体的にはないが、日々の生活で心配が大きくなった」
- 「アンケートと言って(受診した)」

